

大阪府外来生物リスト 鳥類についての補足

大阪府外来生物リスト 鳥類についての補足

和田 岳

2020年3月1日からの特別展「知るからはじめる外来生物」では、分厚い解説書を作りました。しかしそれでも書き切れなかったことや、説明が不十分な点があるので、この場を借りて補足したいと思います。

表1に大阪府外来生物リストの鳥類部分を載せました。特別展解説書には、昆虫から植物まで全分野の大阪府外来生物リストが付いているのですが、あまりに分量が多くて（その約7割は外来植物！）、情報を削らなくてはなりません。移入経路や大阪府での生息状況を付けたバージョンが表1です。

意外と少ない大阪府の外来鳥類

表1の大阪府の外来鳥類の掲載基準は、一度でも大阪府内で繁殖したことがあるかどうかです。13種が該当するのですが、この内7種（種名に※が付いているもの）はかつて繁殖したことがあるというだけで、現在は生息していません。つまり、現在の大阪府の外来鳥類は、6種だけということになります（特別展解説書には、ドバト以外の5種の分布図が載っています）。

大阪府で繁殖が確認されたことのある鳥類は、在来と外来をあわせて、約107種です。外来鳥類の割合は、約12%。哺乳類では、外来哺乳類が25%を占めますので、それと比べるとさほど多くありません（ちなみに爬虫類では約17%と両者の中間）。

野外で見かけるが、定着していない外来鳥類

表1では、繁殖記録がある外来鳥類だけを取り上げていますので、野外で見かけることがあっても載っていないものがあります。その代表格は、セキセイインコです。野外で見かける外来鳥類はすべて掲載すればいいようなものですが、それだとあまりにも種数が増えてしまいますし、きちんとした記録も見当たらないので、繁殖記録のある種だけに絞っています。この方針は、『日本鳥類目録 改訂第7版』（日本鳥学会目録編集委員会2012）でも同じです。

セキセイインコは、野外でしばしば見かけるのに、近畿地方全体でも、京都府でしか繁殖記録がありま

せん（江崎・和田2002）。じゃあ野外で見かけるセキセイインコは何なのかと言えば、飼っていたペットが逃げ出したもの（かご抜け個体）です。頻繁に見かけるのは、頻繁に逃がすからで、多くの人が飼っているからでしょう。

表1にあげたカエデチョウ科やホオジロ科の鳥は、まとめてフィンチ類と呼ばれる種子食の鳥です。1980年代頃までは、さまざまなフィンチ類がペットショップに並び、さまざまな種のかご脱け個体が、河川敷や公園などで見られました。

中でもベニスズメは、大阪府各地の河川敷などの草地でふつうに観察され、淀川のヨシ原には群れが居付き、繁殖もしていました（日本野鳥の会大阪支部1987）。ベニスズメはすっかり大阪府に定着したように見えました。ベニスズメの繁殖は、当時、大阪府だけでなく、本州、四国、九州の広い範囲で記録されていました（日本鳥学会目録編集委員会2012）。

しかし、ベニスズメは1990年代に減少し、今ではほとんど見ることもありません。一度は野外での定着に成功したかに見えましたが、実はかご脱け個体が継続的に供給されることで個体群が維持されていただけ。ペットとしての流通量が減って、かご脱け個体が減ると、個体群が維持出来なかったのではないかと考えられています。

一方、関東地方では、かご脱け個体由来と考えられるホンセイインコが市街地での定着に成功してい



図1：カルガモとアヒルのペア。2014年5月30日、堺市大泉緑地頭泉池。この池では、交雑したとおぼしき個体も観察されている。

表1：大阪府外来鳥類リスト。大阪府で繁殖記録のあるもののみを挙げた。

| 科 | 和名 | 学名 | 原産地 | 移入経路 | 大阪府での初認年 | 大阪府での生息状況 |
|---------|-------------|--|-------------|--------------------|-------------|---------------|
| キジ科 | コジュケイ | <i>Bambusicola thoracicus</i> | 中国南部 | 狩猟用に放鳥 | 1920年代? | 山地～丘陵の林に生息 |
| カモ科 | コブハクチョウ | <i>Cygnus olor</i> | ユーラシア大陸 | 観賞用に放鳥 | 1970～1980年代 | 公園などの池 |
| | アイガモ・アヒル | <i>Anas platyrhynchos</i> var. <i>domesticus</i> | (家禽) | 飼育個体の逸出・放棄、放鳥 | 不明 | 公園などの池 |
| ハト科 | ドバト | <i>Columba livia</i> | (家禽) | ベットの逸出・放棄、イベントでの放鳥 | 不明 | 市街地に広く多数生息 |
| セイタカシギ科 | クロエリセイタカシギ※ | <i>Himantopus himantopus mexicanus</i> | 南北アメリカ大陸 | 飼育個体の放鳥 | 2003年 | 堺市の池や埋立地で繁殖記録 |
| ヒヨドリ科 | シロガシラ※ | <i>Pycnonotus sinensis</i> | 琉球列島～東南アジア | ベットの逸出・放棄? | 2017年 | 高槻市淀川で1例の繁殖記録 |
| チメドリ科 | ソウシチョウ | <i>Leiothrix lutea</i> | 中国南部～東南アジア | ベットの逸出・放棄 | 2000年 | 山地に広く生息 |
| ムクドリ科 | ハッカチョウ | <i>Acridotheres cristatellus</i> | 中国中南部～東南アジア | ベットの逸出・放棄 | 1983年 | 市街地に広く点在 |
| カエデチョウ科 | ベニスズメ※ | <i>Amandava amandava</i> | 南アジア | ベットの逸出・放棄 | 1973年以前 | かつて河川敷等の草地 |
| | ギンバラ※ | <i>Lonchura malacca</i> | 南アジア | ベットの逸出・放棄 | 1965年 | 羽曳野市で1例の繁殖記録 |
| | キンバラ※ | <i>Lonchura atricapilla</i> | 南アジア～東南アジア | ベットの逸出・放棄 | 1973年以前 | かつて河川敷等の草地 |
| | ブンチョウ※ | <i>Lonchura oryzivora</i> | インドネシア | ベットの逸出・放棄 | 1973年頃 | かつて東大阪市の住宅地 |
| ホオジロ科 | コウカンチョウ※ | <i>Paroaria coronata</i> | 南アメリカ | ベットの逸出・放棄 | 1980年代 | かつて長居公園や大泉緑地 |

※：2019年現在生息していない。

ます。さほど多くの個体が流通していたとも思えないのに不思議です。外来鳥類の定着の成否がなにで決まるのかはよく分かっていません。

放されて交雑する外来鳥類

古くは仏教行事として、近年は狩猟目的であったり、イベントであったり、飼いきれないからなど、さまざまな理由で放鳥が行われてきました。

狩猟目的のキジなどの放鳥は長年にわたって大量に行われてきました。地域の亜種を無視した放鳥によって、遺伝的な攪乱が起きているのではないかと懸念されています。また、コウライキジ（日本のキジと別亜種または別種）が放されることもありました。大阪府でも2011年に高槻市で記録されています。在来のキジと交雑していないか心配です。

水鳥は、今も頻繁に、あちこちで放されています。表1にあるクロエリセイタカシギは、奈良県で大量に飼育していた人が放したものとされます。コブハクチョウは、2008年に長居公園に放されてしまいました。

放された水鳥で、大阪府で一番大きな問題は、アイガモやアヒルです。カモ類は種間で容易に交雑します。本来、大阪府で繁殖するカモ類はカルガモだ

けなのですが、そこに放されたアイガモやアヒルは、カルガモとペアを作り（図1）、繁殖します。アイガモ・アヒルとカルガモの交雑個体を見かけることは珍しくありませんし、外見はカルガモであっても、遺伝的にはアイガモやアヒルが混じってしまっている可能性があります。アイガモやアヒルは、大阪府のため池に広く分布しています（大阪市立自然史博物館2020）。この先、カルガモと呼べる種が生き残っていけるのか、見通しは明るくありません。

引用文献

江崎保男・和田 岳（2002）近畿地区 鳥類レッドデータブック．京都大学学術出版会，京都。
 大阪市立自然史博物館（編）（2020）第50回大阪市立自然史博物館特別展解説書 知るからはじめる外来生物～未来へつなぐ地域の自然～．大阪市立自然史博物館，大阪。
 日本鳥学会目録編集委員会（2012）日本鳥類目録 改訂第7版．日本鳥学会，三田。
 日本野鳥の会大阪支部（1987）大阪府鳥類目録．日本野鳥の会大阪支部，大阪。
 日本野鳥の会大阪支部鳥類目録編集委員会（2017）大阪府鳥類目録2016．日本野鳥の会大阪支部，大阪。

<わだ たけし：博物館学芸員>